

<図書紹介>

山口 豊一 (編著)
 永作 稔・小菅清香・都丸けい子・藤枝静暁・高橋 誠・
 原田 恵理子・水野 雅之(著)
 『学校心理学の理論から創る生徒指導と
 進路指導・キャリア教育』



本書は、主に対人援助職を目指す大学生や大学院生に向けてのテキストとして書かれている。また、学校現場に携わる教職員や、スクールカウンセラー（SC）や教育相談員などの公認心理師や臨床心理士、学校心理士の資格を持つ心理職、そしてそれらを目指す人も対象に、多くの実践家が学校でカウンセリングを行うために役立つ内容を提供することも目的としている。さらに、スクールソーシャルワーカーや、福祉領域（市区町村に設置されている子ども家庭支援センターなど）に携わる心理職の人たちにも手に取っていただきたい一冊となっている。

現在は、多職種連携における「チーム学校」が提唱されており、多くの援助者がさまざまな役割で子どもを支援していくという考え方が求められるようになった。学校教育をめぐる子どもたちの課題や、教員・保護者・SCなどの援助者を取り巻く環境は、大きく変わってきており、複雑化・多様化している。

教育活動は「自分らしく生きていけるようになること」と「社会の一員として生きていけるようになること」の両立を目指して進められているが、その意味で、進路指導とキャリア教育は教育の本質的な目的に即した教育活動といえる。2017年には文部科学省から小学校、中学校の新しい学習指導要領が、公示され、キャリア教育が初めて学習指導要領に記され、現在のキャリア教育は「特別活動を中核としつつ、すべての教科や教育活動で一人ひとりの社会的・職業的自立を目指してキャリア発達を促すもの」として展開されようとしている。

これらの背景を踏まえ、本書では学校心理学の視点からの生徒指導・進路指導・キャリア教育について述べている。第1部では生徒指導の理論と方法について述べており、生徒指導の意義や児童生徒理解と発達・教育課題、また教育相談の意義や他機関との連携などについてまとめている。第2部では進路指導・キャリア教育の理論と方法について述べており、進路指導・キャリア教育の理論や就学前・小・中・高等学校それぞれの進路指導・キャリア教育の実践と現場、心理的支援、大学における進路指導・キャリア教育とキャリアカウンセリングについてまとめている。

対人援助職を目指す学生をはじめ、学校現場に携わるさまざまな立場の方々に、手に取っていただき、子ども一人ひとりに対するサポートが充実し、一人ひとりの子どもの成長発達が促進され、学校生活の質が向上する一助になればと思っている。

(学文社刊 初版 2022年2月発行 A5判 160ページ 本体1,800円)

<図書紹介>

小高佐友里著

『スクールカウンセラーによる学校危機予防教育：
ソーシャル・エモーショナル・ラーニングの導入』

「いじめ」や「不登校」の増加，個々の事例における深刻化等を受け，スクールカウンセラー（以下 SC）制度は，教育改革の施策のひとつとして，1995 年度から配置が始まった。2015 年には，「これからの学校教育を担う教職員やチームとしての学校のあり方について（答申）（以下「チーム学校」）（文部科学省，2015）」が出され，教育，福祉，心理等の専門スタッフが連携し，業務を分担する体制を整備することで，学校全体が 1 つのチームとして，児童生徒の支援にあたることが求められるようになった。それに伴い，心理の専門家である SC は，予防教育の担い手として新たな役割を期待されるようになったと考えられる。

さて，筆者は公立の小中学校で SC として，個別相談やコンサルテーションを中心に活動を展開してきたわけが，「チーム学校」の流れの中で，全ての児童生徒を対象とした予防教育に，どのように取り組んだらよいものかという戸惑いを感じていた当事者の一人でもあった。同時に，個別対応への限界を感じていた時期でもあり，新たに求められることとなった予防の役割を，どう担えばよいのだろうかと試行錯誤の日々を重ねてきた。

その際，取り組みの足がかりとなったのが，本書で紹介しているソーシャル・エモーショナル・ラーニング（Social and Emotional Learning ; SEL）の考え方である。SEL は自己の捉え方と他者との関わりを基礎とした，社会性（対人関係）に関するスキル，態度，価値観を育てる学習で，「社会性と感情（情動）の学習」と呼ばれることもある。SEL は子どもたちの社会性と感情の学習を促すために開発され，効果が確認されたプログラムの総称で，予防教育の枠組みを示すものである。特定の教育方法や学習プログラムを指すものではないため，個々の実践者の工夫や学校の現状に応じた取り組みが必要となる。

本書は，この SEL を SC の立場から効果的に実践していく方法を提案するために，SC へのアンケートやインタビュー調査を通し，予防教育実践の現状および課題の検討を行う理論パートと，SEL を限られた勤務時間内で効果的に実践するための手立てを紹介した実践パートから構成された全 6 章 305 頁の図書である。授業の段取りや先生方との連携方法に加え，実際に使用した授業案や研修資料，ワークシート等を掲載しているため，予防教育活動の実践を検討される際に，SC の先生方にご活用いただくとありがたい。SC による予防教育が，子どもたちの輝かしい未来づくりの一助となることを願い，図書紹介とさせていただきます。

（風間書房刊 初版 2022 年 2 月発行 A5 判 305 ページ 本体 7,500 円）

<図書紹介>

清水弘美・鈴木敦子・中島朋紀(編著)
村松 雅・原 道子・林 尚示・鈴木 樹(著)

『今こそ特別活動!』



本書は特別活動（学級活動，児童会活動，クラブ活動，学校行事）のテキストである。128 ページで，目次と執筆者は以下の通りである。

まえがき（鈴木敦子）

PART 1 学校現場の実践（清水弘美）

PART 2 大学の授業を振り返って（鈴木敦子）

PART 3 被災者支援・地域とのかかわり（村松 雅・原 道子）

PART 4 特別活動を学ぶ

1 道徳教育・道徳科との関係（中島朋紀）

2 総合的な学習の時間との関係（林 尚示）

3 キャリア教育との連携（鈴木 樹）

4 安全教育との連携（鈴木 樹）

5 幼小連携・接続を通して（中島朋紀）

6 「特別活動ができる」教師の育成（鈴木 樹）

7 「学び特別活動し続ける」教師（中島朋紀）

編著者紹介

あとがき（中島朋紀）

PART 1 では，特別活動について清水氏の実践に基づいて全般的な説明が行われ，PART 2 では大学の実践に基づいてとくに学級活動について取り上げられている。

本書の特徴は特別活動と関連する項目が充実していることである。PART 3 では東日本震災被災地（宮城県石巻市・女川町・南三陸町）・被災者との交流，神奈川県二宮町のコミュニティスクール構想による特別活動と地域との連携，PART 4 では，道徳教育・道徳科，総合的な学習の時間，キャリア教育，安全教育，幼小連携・接続と特別活動との関係が説明されている。さらに，「特別活動ができる」教師の育成，「学び特別活動し続ける」教師という特別活動と教師との関係の節が設けられていることも本書の大きな特徴である。

（一藝社刊 初版 2022 年 9 月 発行 A5 判 128 ページ 本体 1,900 円）